

スターチス・シヌアータのセル成型育苗における用土の種類と施肥量							
<p>【要約】 スターチス・シヌアータのセル成型育苗では、ピート、パーライト及びバーミキュライトを1：1：3または2：0：3の割合で混合した用土を用い、施肥量を1ℓ当たり窒素成分で200mg施用すると充実した苗が育成できる。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園芸	専門	栽培	対象	花き類	分類	普及

【背景・ねらい】

草花類のセル成型育苗は、育苗の省力化と分業生産、並びに定植後の活着促進を目的として生産者組織や種苗業者等により急速に普及しつつある。しかし、育苗用土や施肥量等に関しては草花の種類ごとに検討した事例が少ない。そこで、本県で生産が拡大している洋花のスターチス・シヌアータについて、セル成型育苗における適正な用土の種類及び施肥量を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①ピート、パーライト及びバーミキュライトを用い、それぞれの混合割合を変えて作成した用土の特性は、ピートまたはパーライトの割合が多いほど液相率が高い。それに対して、バーミキュライトの割合が多いと気相率が高くなる（表1、図1）。
- ②ピート、パーライト及びバーミキュライトを1：1：3または2：0：3の割合で配合した用土は、苗の葉数、地上部・地下部重が増加し、根の活性（TTC還元力）も高い（表2）。そのときの用土の気相率は20%台である（図1）。
- ③施肥量は、用土1ℓ当たり窒素成分で200mg施用すると苗の徒長がなく、健全な苗が育成できる。300mg以上施用すると最大葉長、節数及び地上部重が増加するが、T/R比が増加する等、軟弱・徒長した苗となる（表3）。

【成果の活用面・留意点】

- ①スターチス切花産地における育苗技術として普及を図る。
- ②セル成型トレイに用土を詰めたらよく灌水し、用土が十分に吸水したことを確認した後、播種を行う。

[具体的データ]

表1 用土の混合とpH、EC及び真比重 (平成4年)

用土	混合割合			pH	EC 4s	真比重
	ピート	パーライト	パーミキュライト			
A	1	0	0	5.2	48	0.27
B	1	1	0	6.0	50	0.32
C	1	1	1	5.9	41	0.53
D	1	1	3	6.4	40	0.68
E	2	0	3	5.5	64	0.54
F	0	0	1	6.4	48	1.12

注) ①混合割合は体積比

②A~E用土は苦土石灰によりpH調整した

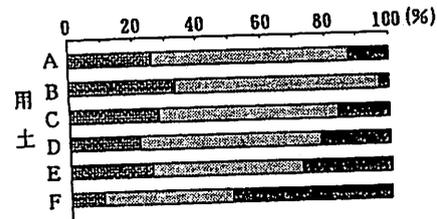


図1 用土の種類と三相分布 (灌水24時間後) (平成4年)

■: 固相, □: 液相, ▨: 気相

表2 用土の種類と播種4週間後の生育 (平成4年)

用土	最大 葉長 cm	葉数	生体重		根のTT C還元力 μg/FW·hr
			地上部 g	地下部 g	
A	5.8	7.2	0.75	0.13	255
B	5.8	7.5	0.81	0.08	239
C	5.5	7.5	0.77	0.13	235
D	6.6	7.7	0.95	0.15	263
E	5.7	7.3	0.85	0.16	252
F	5.2	7.2	0.69	0.17	208

注) ①品種はアーリーブルー

②平成4年5月13日播種

③セルの容量は21ml (162穴)

④施肥量はN: P₂O₅: K₂O= 200: 164: 200mg/l

表3 施肥量と播種4週間後の生育 (平成4年)

施肥量 mgN/l	最大 葉長 cm	葉数	生体重	
			地上部 g	地下部 g
0	1.5	4.3	0.14	0.06
100	3.9	6.5	0.56	0.21
200	5.9	7.3	0.85	0.20
300	7.1	8.0	1.18	0.19
400	8.6	9.1	1.53	0.21

注) ①品種はアーリーブルー

②平成4年5月13日播種

③セルの容量は21ml (162穴)

④用土は「与作」(パーミキュライト: ピート: 赤玉=7: 2: 1) の肥料ぬきを使用

⑤施肥はマイクサイズロク (N: P₂O₅: K₂O=11: 9: 11) を用い、用土1ℓ当たりの窒素量で示した

[その他]

研究課題名: セル成型トレイ育苗法の改善

予算区分: 地域重要

研究期間: 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者: 谷川孝弘、小林泰生、坂井康弘

発表論文等: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書